

日露修好150周年記念回航事業【参加者の声】

新湊商工会議所

青木邦英

私が回航事業に参加して印象に残ったことは、ロシア極東国立総合大学で行われた学生会議でのスピーチです。

中でも「ロシア人は日本に好意的で関心が高いのに対し、日本人はロシアにあまり良いイメージを持っておらず関心も低い」という内容のご指摘がありました。

まさか修好150周年を記念して実施されたこの事業で、それも合流して間もないこの会議において、そのような内容の発言があるとは考えてもおらず、またあまりにも鋭いご指摘だったこともあり、本当にびっくりしました。

確かに日本ではロシアの情報は少なく、私を含め多くの皆さんは学生時代に学んだ歴史やマスメディア等の情報から、暗いイメージの国を想像していたように思います。

しかしながら今回参加させていただき、ロシアの皆さんと触れ合うことによって、これまでのイメージが払拭され、その明るさと積極性から、ある意味日本人より人間らしく感じたほどで、政治・宗教・文化が違えども、同じ人間には変わりはないということをあらためて実感しました。

「百聞は一見にしかず」という諺がありますが、まさに今回の回航事業がそうであったように思います。また情報の正確性と自分自身が目で見て体験することの重要性を再認識したしだいであります。

今回、ゆかりの地代表（富山県の一般参加者）として参加させていただいた訳ですが、学生・一般を問わず多くの皆さんと交流できましたことは大変貴重な経験であり、自分自身をあらためて見つめなおす良い機会であったように思います。



また富山県はロシア沿海地方と姉妹提携を結んでおり、私達が乗船したロシア船「ルーシ号」も、日本で唯一の日露間（伏木～ウラジオストク）の定期客船として運航されております。今回の経験を生かすためにも、自分の役割を認識し、日露関係の改善に向け少しでも貢献できるように取り組んでいきたいと思ひます。

最後に今回の事業にご尽力いただいた関係各位の皆様に心から感謝申し上げます。